

- GAP認証農産物を取り扱う意向を有する実需者を「GAPパートナー」として募集し、Webサイトに掲載。
- 実需者・消費者の理解促進・需要喚起のため、実需者と産地の関係構築を推進（令和7年4月末時点：71社）



## 取組の紹介

### 共業生産によるGAPの取組 ～株式会社アースコーポレーション～

株式会社アースコーポレーションでは、2005年よりGAPの普及に取り組み、GAP認証農産物のプライベートブランド化に注力。現在では、GAP認証産地が全国に広がり、大手量販店のPBとして販売される。今後は、GAPを活用した農場マネジメントシステムの普及にも注力していく予定。また、産直農産物の信用性を高めるため、地場生産者向けにもGAPを普及。GAP認証生産者専用の売り場を設け、消費者にもGAPの重要性を伝える。



PB化したにんにく産地



### 小売業、サービス業、卸売業、食品製造業等の農産物を取り扱う事業者の皆様を幅広く募集します！

**GAPパートナーのメリット**

- GAP認証農産物の産地情報の入手
- 農林水産省が提供する各種施策に関する情報の入手やセミナーへの任意参加
- 農林水産省のホームページでGAPパートナーを紹介

無料で登録できます！

## 「顔が見える野菜。」「セブンファーム」の取組 ～株式会社イトーヨーカ堂～

「顔が見える野菜。」

- ・2010年～独自GAPを作成しGAPを普及
- ・GAP認証の生産者を金色のラベルで目立つ形で販売



「セブンファーム」

- ・生産者向けにGAP勉強会を開催し、全拠点でGAPまたは有機JASなどの第三者認証を取得



「顔が見える野菜。」「セブンファーム」2012年GAP普及大賞受賞

## GAP取得に向けた農場指導について ～生活協同組合コープおおいた～

コープおおいたの産直生産者に向けて毎年1回点検活動を実施。全国一律で生協版GAP点検と称して、独自の点検を進めているところ。GAPの取得は販路拡大に繋がるため、認証取得を目指す農場にはアドバイスを行う。

生産者からは「点検を受けることで新たな気づきがあるとともに、他の販売先へ好印象を与えることに繋がっている。」という声。

GAPの必要性を広げつつ、入り口となる生協版GAPを推進することでGAP認証取得農業者の増加を目指す。



産地点検の様子

## 環境に配慮したGAPの取組 ～日本航空株式会社～

日本航空株式会社では、2018年12月より日本発ビジネスクラス・エコノミークラスの機内食にて、ASIAGAP/JGAPの認証を受けた食材を継続的に提供。

また、グループ会社JAL Agriportの自営農場では 2019年11月にASIAGAPを取得し、認証野菜を機内食やJAL Agriportのレストラン「DINING PORT 御料鶴」にて提供。



羽田、成田発国際線  
エコノミークラス  
(サラダの提供がない便は除く)  
2024通年提供

## GAP取得商品調達拡大の取組 ～(株)日の出屋内藤商店～

株式会社 日の出屋内藤商店では、2018年（平成30年）から第三者認証GAP取得農産物の取り扱いを開始。GAP指導員資格を取得する事からGAP認証への理解を深め、認証取得農産物の取り扱いを拡大。  
大手コンビニチェーンへ供給される商品に取り扱い農産物を提供。

今後はさらに、調達品目の拡充、年間を通じた安定調達を目指す。



G A P 認証取得農場

